

東海および関西企業の金融意識と期待する金融サービス

名古屋大学 家森信善

近年、金融行政はもちろんのこと、地域金融機関自身がリレーションシップバンキング機能の強化に努力してきた。しかし、既製の資料では企業の生の声を知るには限界があり、中小企業が地域金融機関に本当に望んでいるものはどのようなものであるのかは必ずしも明らかになっていない。

そこで、自らアンケート調査を実施し、地域の企業が地域金融機関に何を望んでおり、そのためにどのような政策的な課題があるかを探ることにした。具体的には、東海資本市場研究会（事務局 野村證券名古屋支店）の協力の下、2004年2～3月に東海地域（愛知県、岐阜県、三重県）の企業8472社に対してアンケート調査票を送付して、684社からの回答を得た。このアンケート調査では、企業の経営戦略全般に関する質問、財務の一般的な方針や考え方に関する質問、銀行取引に関する質問、直接金融に関する質問、コーポレート・ガバナンスについての質問、産業クラスターに関する質問、などを行っている。このアンケート調査結果は、多和田眞・家森信善編『東海地域の産業クラスターと金融構造』（中央経済社 2005年）にまとめている。

さらに、独立行政法人・経済産業研究所・地域金融研究会（主査 筒井義郎大阪大学教授）のプロジェクトとして、2005年6月に関西地域（大阪府、京都府、兵庫県）の企業9000社に対するアンケート調査を実施し、2041社から回答を得た。このアンケート調査は、第Ⅰ部・アンケート回答者の属性、第Ⅱ部・回答企業の属性、第Ⅲ部・回答企業の経営全般、第Ⅳ部・財務の一般的な方針、第Ⅴ部・メインバンクとの関係、第Ⅵ部・銀行取引一般、第Ⅶ部・金融機関による中小企業審査のあり方、第Ⅷ部・信用保証制度、と幅広く中小企業金融の重要問題を網羅した内容となっている。この結果については、家森信善「企業が望む金融サービスと中小企業金融の課題－関西地域の企業金融に関する企業意識調査を中心に－」（経済産業研究所 RIETI Discussion Paper Series 06-J-003 2006年）にまとめている。

本報告では、これらのアンケート調査の結果を紹介しながら、東海地域や関西地域の中小企業金融の相違点や類似性を明らかにし、わが国の地域金融、特に中小企業の金融の現状と課題について検討することにした。